

なめがた市民 100 人委員会「第3班」議事概要

議論した基本目標	地域に根差した産業を活性化し、働く場を確保する
コーディネーター	前田 真(北海道清水町)
審議員	なし
説明担当者(自治体)	商業観光課、事業推進課、政策秘書課
日時	2021年7月17日(土) 14時55分から 16時00分
その他	参加者数 会場 6名 オンライン: 3名 欠席者数 14名

総括

コーディネーター総括

- 地元の商店を残していきたいなら、地元で物を買う習慣が必要。そのためには、地元の人が集まるインフラが必要だし、働きやすい環境も必要。行政、市民だけでなく、事業者へのアプローチも必要になる。
- 観光で人を呼ぶ場合、観光客が望む状態になっているか。交通網やお店の受け入れ態勢が整っているかが大切。行政は市民感覚を知るようにしてほしいし、市民は行政に伝えてほしい。

協議の流れ

協議しているテーマ①

雇用の分野

コ)「魅力ある職場」とは待遇面など福利厚生が充実していること。行方市には給与が低い仕事や、IT 関係の仕事が不足するなど選択肢が少ない現状がある。みんな行方市で働きたくないのではなく、働く場がない。公共交通が揃わないと、車がない人は働けない。

ふれあいランドが成功するかわからないが、作ったうえでどのように進めていくのか。大きな働く場を確保することで、進んでいくこともある。また、外貨を稼ぐ方法は地域の歴史などを活かした集客を目指す。アウトドア観光はまだ議論を尽くせていない。行方市に最適な企業誘致を粛々と進めよう。

今後、過疎地域に認定されるような地域の人口が突然上がることはない。事業所が減っても、事業所の所得が上がれば働き手の収入は上がる。行方市はベッドタウン化している現実があり、市内に働く場を確保して昼間人口＝夜間人口を目標にしてはどうか。観光イベントはイメージもよく実施するのはよいが「夢」では食っていけない。経済効果を見込める所得につながる観光を目指してほしい。

成功した姿：一事業所当たりの販売額を増加させ、市民所得の向上につなげたい。「ないものねだりからあるもの探しへ」。他のまちにない強みがあるのに、活かさきれていないの

では？(参考:資料)

コ)商業分野で、行方の店を買い支えないといけない認識があるか？地産地消している？

委)多少は考えている。

委)あんまりしてないね。

委)かわいいもの、おしゃれなものは近くにない。こどもは大きなお店に行ってみたいんだと思う。

委)公園がないから他市に出て行って、その時に一緒にご飯食べる、足りてない物を買って帰る、になっている。

コ)公園というインフラがあれば人が集まれるかもしれない。

委)公園も整備されていないと意味がない。遊具が使えなかったり、古かったりする。

委)最近は商店で買うのが減った。コンビニとかが多いね。

委)神栖の公園にはカフェスペースがある。ちょっと休憩しに行こう、となる

委)お店が減って、行くところは減った。

コ)地元のお店がなくなるのは、地元のお店で買わないから。商店なども開業するのに、不安があるだろうから行政がサポートするのも大事。働きやすい環境作りも今後は必要になってくるが、市民一人一人というよりは事業者一人一人。

協議しているテーマ②

観光の分野

コ)地域資源や産業を活かした観光。市としてはサイクリング・アントラズとのタイアップを目指した観光を行っていききたい。市民として何か感じることはあるか？

委)ピンとこない。これまでと何が違うのか。

コ)人を呼び込んで外貨を稼ぎたいということは共感できると思う。その手法がピンとくるかどうか。

委)アントラズは鹿嶋市で盛り上がっているだけ。サイクリングも霞ヶ浦の方。

委)昔の方が盛り上がっていた。アントラズのファンは今も盛り上がっているが、全市民で盛り上がっている感じではない。渋滞を起こしているみたいなイメージもある。

委)行方市でフォトコンテストをやるとかの方が面白そう。

委)そういうのもやっているんだよね。知っている人は知っている、が多い印象。一部の人しかやっていない。

市)アントラズはDMOで、アントラズのホームタウン5市の広域で人を呼び込んでこようという動き。

委)行方市は何をしているの？

市)ファーマーズヴィレッジで芋ほりなどの体験型の企画を実施している。これまでは市だけで考えていたが、広域でやっていくようにしていきたい。

コ)心配なのは、取り組みによって市民所得ってあがるのか、ということでは？

委)渋滞しているだけ、というのは、迷惑だよね。車を呼び止める仕掛けがあればいいのにな、と思う。

- コ)観光で市民所得が増えるのか、市と市民でずれがある。何をやったらいいのか
- 委)インターのそばで休憩できる場所ができるとうい。ドッグランや子供が遊べる場所がよい。そういうのがないと、今度から「通過点」になっていかないか心配。
- コ)サイクリングの話で具体例。土浦を拠点にして茨城県全体でサイクリングロードとして推していこう、という動き。サイクリングで、どこがどう儲ける？
- 委)通り道の飲食店。
- 委)メンテナンスをする自転車屋さん。
- 委)行方市は歩道が少なく、道路整備しないといけないのでは？これはデメリットか。
- コ)市はどんな経済効果を期待している？
- 市)東京などからどれだけ来てもらえるかというのもあるが、グルメ店や歴史館のようなところを巡ってもらう。これも広域連携で潮来市など4市と一緒に、ポイント制にしていこうと思う。特に恩恵を受けるのは飲食店。買い物関係もやっていけないかと思っている。
- コ)飲食店は恩恵を受けると思う。サイクリング関係の話を聞いてみたら、ロードバイクを立てかけるスタンドや、特殊な靴(床に傷がつく)への理解が必要で、お店側が迷惑がってしまうとサイクリングの人が居たなくなる。
- サイクリングをする人は軽装だから、お土産・買い物はして帰らない。やる人の気持ちになった施策・アイテムを作ると良いのでは。旗は立っている、用具は揃っている、しかし儲けてはいない。ここをどうするか。
- 市)秋にはサイクリング向けのアンケートを行って、意見をもらおうと考えている。
- 委)おそらくだが、サイクリングの人には凝ったものはいらぬ、トイレとか水を飲む場所とかだけでいいと思う。玉造の道の駅はもっと活用できると思う。
- コ)外からくる人が迷惑がっている間は、観光としては難しい。

コ)なめがたブランドについて、率直な意見を。

委)なめがたブランドってなにあるんですか？

コ)市民の認識との違いを表していると思う。

大規模でやっていない農家もあって、細々とでもしっかり収入があるところもある。清水町の事例をお見せする。自分たちのまちの食材をどうやって売り込むかを、商工関係と5年かけて研究して、ご当地グルメ全道グランプリ3連覇するほどのPRできた。この動きに、スタートアップは手伝ったが、以降に役所はほとんど関わっていない。町民の力は大きいので、やればできるという事例。

委)行方井ってあったよね？

市)行方の野菜・魚を使って作ったものをそう言っていた。なくなったわけではない。

コ)おそらく、市民所得につながっていないからではないか。最初は「まちのため」などといってくれるが、年月が経つと意欲につながらぬ。分かりやすい指標として市民所得は意識してほしい。

トマト農家に「お金だけじゃない、豊かに生活することとお金がいっぱいあることはイコールじゃない」と教えてもらった。潤いと賑わいに満ちたまち、を考えるとときに市民所得だけで

はないのだが、両方の意見を大切にしてほしい。

ホワイボードの写真(コーディネーターが議論をまとめた資料含む)

①働く場の拡大プロジェクト

3

基本目標 2

地域に根差した産業を活性化し、働く場を確保する

(みなさんから意見をいただいてコーディネーターとして感じたこと)

(雇用分野：シート1_02_1)

- 働く場の拡大とは、事業所数を増加させることだけでなく、「魅力的な仕事」を増やすこと。
「魅力的な仕事」とは、給与、待遇面等の**福利厚生面**が近隣市町村より充実している仕事。市内の仕事は、給与が安すぎて選択肢から外れる。
若者が希望するのは、**時代に即応**した仕事。(IT関係など)
- 行方市は車が無いと不便。
働きやすい環境の整備の一つに、**公共交通網の整備**があげられる。

15

基本目標 2

地域に根差した産業を活性化し、働く場を確保する

(みなさんから意見をいただいてコーディネーターとして感じたこと)

(観光分野：シート1_02_2)

- 行方の**産業構造を正しく分析**し、**不足している社会資源**の整備と、仕事がセットであることが、持続可能なまちづくりにつながる。
(飲食、交通)
- 観光に力**をいれ、外貨を稼ぎたいならば、**突飛**なものに飛びつくのではなく、**基幹産業である農業や地域の歴史や風土の融合**を意識した観光を目指す必要がある(ファーマーズヴィレッジ)
- アウトドア**観光は、**市民の所得向上**につながるのか。

16

基本目標 2

地域に根差した産業を活性化し、働く場を確保する

(みなさんから意見をいただいてコーディネーターとして感じたこと)

(企業誘致分野：シート1_02_3)

- 新たな企業**を誘致する際には、既存の事業所とのバランス等**全体最適を意識**する必要がある。(労働者の奪い合い)

17

目標（ありたい姿を実現するために）

（雇用分野：シート1_02_1）

- 事業所数及び従業員数の増（経済センサス）
- 卸売・小売の年間商品販売額の増（経済センサス）
- 一事業所あたりの販売額の増
- 労働力流出減（昼間人口＜夜間人口→昼間人口＝夜間人口）
- 起案件数（難しければ特定創業支援事業を受けた創業者の数）

（観光分野：シート1_02_2）

- 市民所得の向上につながる観光イベント
（経済効果を人数×経費で数値化）
- 観光入込客数

◎現実的に事業所数は減ることを受け入れつつ、

**一事業所あたりの販売額は増加させ、
市民所得の向上につなげたい**

18

目標（ありたい姿を実現するために）

（企業誘致分野：シート1_02_3）

- 企業誘致件数の増
（工業団地、学校跡地、サテライトオフィス含む）
- 労働力流出減（昼間人口＜夜間人口→昼間人口＝夜間人口）

◎今までも、これからも、

行方**市民にとって最適な企業誘致**を積極的に進めたい

19

地域資源と産業を活かした行方スタイルへ ～ないものねだりからあるもの探しへ～

【施策】（雇用分野：シート1_02_1）（観光分野：シート1_02_2）

【行政】

○魅力的な仕事を創り、市民所得を向上

経済基盤を強固にすることによって、市民所得をはじめとする雇用環境が向上するよう様々な支援を講じる

- ・創業支援の充実（新規事業者）
- ・就業支援（学生、障がい者）
- ・中小企業の経営基盤の安定・強化（経営支援、公共交通、公園等の環境整備）
- ・仕事に関する情報提供（マッチング）

○地域に根差した観光振興

行方ならではの地域資源（歴史、風土、文化）を活かした観光で、市民所得の向上を図る

- ・地域資源と産業を活かした観光
- ・観光の広域連携（サイクリング・アントラーズ）
- ・なめがたブランドとのタイアップ

【市民】

○ないものねだりからあるもの探しを

行方ならではの地域資源（歴史、風土、文化）を改めて見直し、社会経済活動を維持する

- ・地元商店等の利用
- ・新規創業者への受け入れに協力する
- ・働きやすい職場環境づくり（インターン・若者・女性・障がい者）
- ・地域資源を学び、市民一人一人が観光大使に
- ・子どもたちへ行方の魅力を伝える
- ・滞在型観光への協力

一事業所あたりの販売額を増加させ、市民所得の向上につなげたい

地域資源と産業を活かした行方スタイルへ ～ないものねだりからあるもの探しへ～

【施策】（企業誘致分野：シート1_02_3）

【行政】

○市内企業立地の支援

産業振興及び地元雇用の拡大を目指す

- ・県と連携した企業誘致活動（工業団地）
- ・学校跡地を活用した中小企業への立地誘導

○サテライト・テレワークに

対応したスペースづくり

コロナ禍による地方回帰を踏まえ未利用地の公共施設を活用

- ・市場調査
- ・ワーケーション事業

【市民】

○市民にとって必要な社会資源を伝える

企業誘致を進める際には、行政は市民の意見を参考に誘致を決定します。行政まかせにするのではなく、市民にとって必要な社会資源を伝えます。

- ・情報提供
- ・不足している社会資源を、会議の場等で伝える（公園・公共交通等）

市民にとって最適な企業誘致を積極的に進めたい